

中国AIの急進と「ミュトス空白」：日本が採るべき3つの生存戦略

中国AI躍進の実像：価格破壊とデファクト化

料金は米モデルの1/10～1/100

DeepSeek等は、米フロンティアモデルに対し圧倒的なコスト優位性を実現。



「キルスイッチ」のない安心感

輸出規制の影響を受けないオープンウェイト型が、企業の事業継続性を支える。

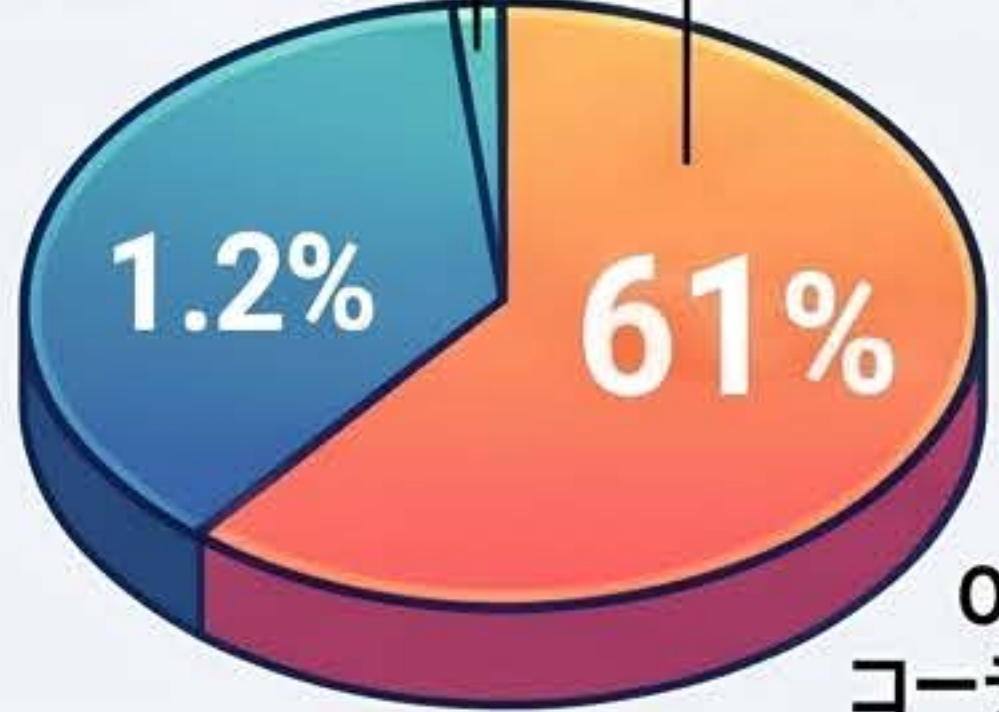


オープンウェイト型

輸出規制の影響は、皆を受けしなく、オープンウエアやオープンウエアウエアが、企業の事業に継続性を支える。

トークンシェアが1.2%から61%へ急伸

米モデル 中国製AI



OpenRouter上で米モデルを運転。コーディングや要約用途で普及が加速。



Mythos 5
輸出規制で一時停止
(2026.06)

中国製AIの急伸

入力/
出力価格
(1Mトークン)

ライセンス
対米フラッグ
シップ比

DeepSeek
V4-Flash

\$0.14
/\$0.28

MIT
35～100倍安



GLM 5.2

約\$1.40
/\$4.40

MIT
約5倍安



Claude
Opus 4.8

\$5
\$25

クローズド
(基準)



日本の「三層」生存戦略：物理とガバナンス



【国家】フィジカルAIと製造データへの集中

匠の知恵（現場データ）の主権を確保し、ロボット基盤モデルへ集中投資。

【企業】オンプレ運用と用途別ルーティング

国産/自社

米製（用途別）

中国モデルは「自己ホスト」を絶対条件とし、用途に応じて国産・米製と使い分ける。

【ガバナンス】中国「データ三法」のリスク管理

域外通関のリスクを前程に、データの保存先や準拠法を階格にチェックする。

CONTEXT: 2026年6月、米Anthropic社の最新モデル「Mythos 5」が輸出規制で一時停止。その「空白」を突いて、圧倒的な低価格とオープン戦略を武器に中国製AIが急伸した。日本は依存リスクを回避しつつ、独自の強みを活かす「三層の戦略」が求められている。